

令和 8 年 9 月 15 日

「令和 8 年熊本地震」に伴う被災地での支援活動について（報告）

令和 8 年 7 月の熊本地震に伴う被災地への支援として、下記のとおり被災地社協の災害ボランティアセンター運営活動を行いました。

- 派遣先 熊本県氷川町
- 派遣期間 第 2 クール：8 月 22 日（土）～8 月 28 日（金）
- 派遣人数 3 名（宮崎県社会福祉協議会職員 1 名、宮崎市社会福祉協議会 2 名）
- 活動日程 1 日目午前 ：トヨタレンタカー宮崎からレンタカーで氷川町社協に向け移動
1 日目午後 ：13 時から第 1 クールより引継ぎを受け活動開始
2～7 日目午前：氷川町災害ボランティアセンターにて運営支援活動を実施
7 日目午後 ：第 3 クールの派遣職員へ引継ぎ後、宮崎に向け出発

■ 活動内容

時 間	内 容
6:30～8:00	大津町内のホテルを出発
8:30	氷川町社協の朝礼に出席
8:30～10:00	氷川町災害ボランティアセンターの運営準備、オリマチ班（※）の補助
10:00～16:30	現地調査班として活動
16:30	氷川町災害ボランティアセンターの終礼に出席
17:15	大津町のホテルに向け出発

・オリマチ班（オリエンテーションマッチング班（※））の補助は、災害ボランティアのグルーピング、オリエンテーションの説明を行うオリマチ班スタッフの補助を行いました。

・現地調査班は、片付けを依頼された地域住民に連絡し、現地周辺の道路状況や依頼内容の確認をするため自宅訪問し、聴き取り調査と撮影を 1 日 6～7 件実施し、システムのニーズ票に追記・画像取り込み作業を行いました。

■活動写真

九州ブロック社協職員間引継ぎ



オリマチ班の補助



現地調査活動



資材班



災害ボランティアセンター終礼



■派遣職員の感想

氷川町災害ボランティアセンターは8月1日に開所し、厳しい暑さの中でのセンター運営をされていました。派遣期間中においても連日、熱中症警戒アラートが発令される気温が続いていましたが、ボランティア・運営スタッフともに熱中症発症者が出ることもなく、ボランティアや応援職員の体調にも細やかに配慮される氷川町社会福祉協議会の皆さまのご尽力によるものだと感じました。また、職員の方々も被災され疲労が蓄積する中でも、応援職員やボランティアに温かく接する姿勢が印象に残りました。

また、現地調査の際、訪問先が分からず近隣住民の方に尋ねたところ、道案内をしてくださったり、近隣住民の方同士がどこに避難されているのかを把握されていたりする場面がありました。日頃からの地域住民同士のつながりが大切であることを改めて実感し、困ったときに「助けてほしい」と声を上げることができる力を地域の中で育んでいくことも重要であると感じました。

今回の支援で得た学びを、今後の災害ボランティアセンター運営や平時の地域福祉活動に活かしていきたいと思います。